

平成25年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会  
高円宮賜牌 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会

2013 未来をつなぐ北部九州総体 アーチェリー競技



吹きおたれ若人の風 北部九州へ

# 競技上の注意



【開会式、閉会式】 武雄市文化会館 佐賀県武雄市武雄町大字武雄 5538 番地 1  
【競技会場、練習会場】 武雄市白岩運動公園 佐賀県武雄市武雄町大字永島 15057 番地

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部  
平成25年度全国高等学校総合体育大会佐賀県実行委員会

< 競技日程 >

日程	実施内容	時間	適要
	8月1日 (木)	10:00 ~ 16:00	練習会場開設
	8月2日 (金)	10:00 ~ 11:00	監督会議
		12:00 ~ 12:55	男子公式練習・女子用具服装検査
		13:05 ~ 14:00	女子公式練習・男子用具服装検査
		15:30 ~ 16:20	開会式
		9:00 ~ 14:00	練習会場開設
1日目	8月3日 (土) 団体・個人戦 予選ラウンド	8:40 ~ 12:30	男子予選ラウンド
		13:20 ~ 17:10	女子予選ラウンド
		13:00、17:40	男女予選ラウンド通過校・選手 発表(掲示発表による)
		9:00 ~ 17:00	練習会場開設
2日目	8月4日 (日) 個人戦 決勝ラウンド (マッチラウンド)  3位決定戦 優勝決定戦は 交互射ち	8:40 ~ 9:25	男女1回戦1組目
		9:40 ~ 10:25	男女1回戦2組目
		10:45 ~ 11:15	男女2回戦
		11:25 ~ 11:55	男女3回戦
		12:05 ~ 12:35	男女準々決勝戦
		12:45 ~ 13:15	男女準決勝戦
		13:35 ~ 14:00	男子3位決定戦
		14:10 ~ 14:35	女子3位決定戦
		14:45 ~ 15:10	男子優勝決定戦
		15:20 ~ 15:45	女子優勝決定戦
	16:10 ~ 16:40	個人戦表彰式	
	9:00 ~ 16:00	練習会場開設	
3日目	8月5日 (月) 団体戦 決勝ラウンド (マッチラウンド)  3位決定戦 優勝決定戦は 交互射ち	8:40 ~ 9:25	男女1回戦1組目
		9:40 ~ 10:25	男女1回戦2組目
		10:35 ~ 11:05	男女準々決勝戦
		11:15 ~ 11:45	男女準決勝戦
		12:20 ~ 12:45	男子3位決定戦
		12:55 ~ 13:20	女子3位決定戦
		13:30 ~ 13:55	男子優勝決定戦
		14:05 ~ 14:30	女子優勝決定戦
	15:30 ~ 16:20	団体戦表彰式・閉会式	

※タイムテーブルは予定時間のため、天候その他により変更することがあります。

< 競技規則 >

(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則および(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める大会運営規定により実施する。

## < 大会運営規定 >

### 1 用具・服装検査について

- (1) 用具・服装検査は、指定された場所・時間帯に受けること。
- (2) 検査票には、予め必要事項を各選手が記入し検査時に持参すること。
- (3) 検査時には当該校の監督が立ち会い、学校単位で実施する。
- (4) 競技に使用する全ての用具および服装について検査を受けること。
- (5) 競技中も、用具および服装は検査継続の対象とする。
- (6) 用具の交換や修理に際しては、その都度審判員のチェックを受けること。

### 2 選手の登録と交代について

- (1) 団体戦のエントリーは4名までとし、予選ラウンドの成績は上位3名の合計得点で決定する。  
決勝ラウンドにおいてはエントリーされた4名の内、3名で行射を行い、交代はできない。なお参加申し込み後のエントリー選手の交代は認めない。
- (2) 選手の届け出期限・場所は、以下の通りとする。  
予選ラウンド……エントリー選手の棄権がある場合のみ。  
8月2日(金)の監督会議終了までとする。(監督会議会場)  
決勝ラウンド……団体戦出場メンバー3名を記した「団体戦決勝ラウンドエントリー用紙」を8月4日(日)10:00までに競技本部に提出する。

### 3 競技・行射方法について

- (1) 予選ラウンド「8月3日(土)」およびシュートオフ、順位の決定
  - ア 団体戦ならびに個人戦の予選は同一選手をもって実施する。
  - イ 予選ラウンドは男女とも競技会場で実施する。  
男子は8:40～、女子は13:20～(隔年で男子女子の時間帯を交代)
  - ウ 行射は1標的2名の2立ち(AB/CD)で、距離は70m、122cm的を使用し、4分6射ごとに採点および矢取りを行う。なお、選手の行射エリアは、シューティングライン上のポイントとポイントの間とする。
  - エ 競技前に練習を設ける。(AB・CD矢取り、CD・AB矢取り)
  - オ 矢取りは当該出場選手が行うものとする。
  - カ 弓具破損等で審判へコールするときは、シューティングライン上より一步後退し挙手して審判員に知らせる。
  - キ 団体戦は予選ラウンド上位16チームが、個人戦は予選ラウンド上位64名が決勝ラウンドに進出するものとする。
  - ク 決勝ラウンドへの進出、次のステージへの進出、または3位決定戦および決勝戦のときの同点は10点数、X数を考慮しない。
  - ケ 個人戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(64位)で同点が生じた場合は、フィールド中央に近いどちらの選手も使用していない標的を使用し、1競技者1標的で1射(40秒)の得点によるシュートオフを行う。同点の場合は中心に近い矢により決定する。これでも順位が決まらない場合は、中心に最も近い矢による1射のシュートオフを順位が決定するまで続ける。

- コ 団体戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(16位)で同点が生じた場合には、フィールド中央に近いどちらのチームも使用していない標的を使用し、1チーム1標的(チーム上位得点者3名)で得点による3射(各競技者1射)のシュートオフを1回行う。シュートオフが同点の場合、チーム内の中心に最も近い矢により決定する。これも同じならば、チーム内で2番目(または3番目)に中心に近い矢により決定する。それでも順位が決まらない場合、得点による3射(各競技者1射40秒)のシュートオフを行い、同点のときには、同順位でなくなるまで順次、中心に近い矢により決定する。
- サ 得点が同点だった場合、順位は次のようにして決定する。
- a 10点の数の最も多いもの。
  - b X(インナー10)数の最も多いもの。
  - c これがまだ同数の場合、同順位とする。
  - d 決勝ラウンドの1回戦における対戦表の位置を決めるとき、上記a、bによっても順位が決まらない場合は、ディスクトスによって順位を決定する。

## (2) 個人戦決勝ラウンド

- ア 距離は70m、122cm的を使用する。
- イ ゼッケンは予選終了後に配布する個人戦決勝用を着ける。
- ウ 1組目、2組目とも1回戦の競技開始前にのみ練習を設ける。(2分×2回)
- エ 1・2回戦においては対戦する2名は同じ標的を使用し、3回戦からは1標的1名で行う。
- オ 各対戦の立ち位置はトーナメント表どおりとする。(巻末トーナメント表参照)
- カ 弓具破損によるロスタイムは認めない。
- キ セットシステム(3射5セットマッチ)を実施し、各セットの高得点者は2ポイント、同点の場合は両競技者は1ポイント、シュートオフの勝者は1ポイントを獲得する。各対戦で6ポイント以上に達した競技者は勝者となり次のラウンドに進む。
- ク マッチ戦の敗者の順位決定法
- a 決勝ラウンド1回戦の敗者は全員を33位とする。
  - b 決勝ラウンド2回戦の敗者は全員を17位とする。
  - c 決勝ラウンド3回戦の敗者は全員を9位とする。
  - d 準々決勝戦の敗者は、敗戦時のポイント数とし、同ポイント数の場合はその対戦の合計得点により5位から8位を決定する。  
同点の場合は、本項(1)のサのa・bにより順位を決定する。
  - e 最上位の順位は、準決勝戦、3位決定戦、優勝決定戦の結果による。

## (3) 団体戦決勝ラウンド

- ア 距離は70m、122cm的を使用する。
- イ ゼッケンは予選終了後に配布する団体戦決勝用を着ける。
- ウ チーム内の選手の矢は、ノックやフェザーで容易に区別ができるようにする。
- エ 1回戦の1組目、2組目とも競技開始前にのみ練習を設ける。(2分×2回)
- オ 全対戦において1チーム1標的を用いる。
- カ 各対戦の立ち位置はトーナメント表どおりとする。(巻末トーナメント表参照)

- キ 対戦は各チーム 24 射（2分以内に6射（3名×2射）×4エンド）とする。
- ク 両チームの3選手が1 mライン後方に待機した状態で対戦が始まる。
- ケ 1回戦～準決勝の行射について。
- a ブザー2声で1 mライン後方で行射開始に備える。  
※ムーブアップ(10秒)の間に1 mラインを越えてはならない。
  - b ブザー1声で各チーム1選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
  - c 3番目の選手が行射を終え、1 mラインをまたぎ越した時に時計が止まり矢取りを行う。
  - d 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1度に1選手2本以内を行射する。行射時間の前又は後に矢が発射された場合は、標的に的中した矢の得点をその本数分だけ最高点から順に削除する。
- コ 3位決定戦・決勝の行射について
- a 3位決定戦・決勝戦は交互射ちのマッチ戦とし、チームは3射（3名×1射）後、相手チームと行射を交代する。
  - b 交互射ちのマッチ戦では、予選ラウンドの上位チームが第1エンドの行射の順序を決定する。
  - c 以降は、合計得点の低いチームが、第2、第3、第4エンドを先に行射する。
  - d 両チームの合計得点と同点の場合は、第1エンド先攻のチームが先に行射する。
  - e 先攻するチームはブザー2声で1 mライン後方で行射開始に備える。  
※ムーブアップ(10秒)の間に1 mラインを超えてはならない。
  - f ブザー1声で先攻するチームの1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始し、3番目の選手が行射を終え1 mラインをまたぎ越した時に時計が止まり、最終矢の得点が表示されてから相手チームの行射となる。
  - g 後攻のチームのタイマーが減算を始めたのを確認してから、後攻のチームの1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。3番目選手が行射を終え1 mラインをまたぎ越した時に時計が止まり、最終矢の得点が表示されてから相手チームの行射となる。
  - h 先攻のチームのタイマーが減算を始めたのを確認し、先攻するチームの1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
  - i 行射時間が終了するとタイマーが止まり、最終矢の得点が表示されてから相手チームの行射となる。
  - j 後攻のチームのタイマーが減算を始めたのを確認し、後攻チームの1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
  - k 行射時間が終了するとブザーが3声鳴り、スコアラーは採点を行う。
  - l 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1度に1選手1本だけ行射する。行射時間の前または後に矢が発射された場合は、標的に的中した矢の得点をその本数分だけ最高点から順に削除する。

- コ 弓具破損によるロスタイムは認めない。
  - サ 1人の選手が行射終了後、1mライン後方に下がるまで次の選手は1mラインを越えてはならない。
  - シ チームの3選手全員が制限時間内に行射を終了しなければならない。
  - ス 1mライン後方にいる選手は、スコープを用いて的中場所を確認し、行射中の選手に教示することができる。監督・マネージャーのうち1名はコーチボックスに入ることができ、選手に指示を与えることができる。その際、手持ちの双眼鏡または三脚付きスコープ等を使用することができる。
  - セ 1回戦～決勝戦までの対戦で同点が生じた場合は、シュートオフにより勝敗を決定する。シュートオフではチームの3選手が1射ずつ行射する。この場合も1名ずつシューティングラインに立ち行射する。3射の合計点が同点の場合は、的の中心に最も近い矢を有するチームを勝者とする。これも同じならば、チーム内で2番目(または3番目)に中心に近い矢により決定する。それでも順位が決まらない場合、得点による3射1分(各競技者1射)のシュートオフを順位が決定するまで行う。
  - ソ 3位決定戦・決勝戦でのシュートオフは、交互行射を行い、第1エンド目に先攻したチームが先に行射する。シュートオフには、その対戦で使用した標的を用いる。
  - タ マッチ戦の敗者の順位決定法
    - a 決勝ラウンド1回戦の敗者は、敗戦時の得点により9位から16位を決定する。
    - b 準々決勝戦の敗者は、敗戦時の得点により5位から8位を決定する。
    - c 以上の各ステージで敗者が同点の場合、本項(1)のサのaからcに従って順位を決定する。
    - d 最上位の順位は、準決勝戦、3位決定戦、優勝決定戦、の結果による。
- (4) 標的番号およびゼッケンについて
- ア 予選ラウンドでは、各選手はプログラムに記載された標的を使用する。
  - イ 決勝ラウンドでは、予選ラウンドの順位により標的が決定する。
  - ウ 参加各選手及びマネージャーは、支給されたゼッケンを必ず着ける。

#### 4 得点記録について

- (1) 得点記録は別紙のスコアシート(予選用・決勝用)を使用し、同一標的を使用する全選手で行う。また、選手の得点は携帯端末を使用し入力した後、選手全員が確認して記録を送信する。(インナー10はアルファベットのXを、0点はアルファベットのMを記入する。)
- (2) 予選ラウンドの得点記録は、次の通り各々が分担して行う。
  - ア 矢を所有する競技者の指差し呼称にしたがって、高い得点から順にスコアカードに記入する。その標的の他の競技者は、呼称確認・端末入力・得点記入を行う。
  - イ 矢の所有者および他の同一標的を使用する全選手が、それぞれを分担して確認を行い、確実に実施するものとする。
  - ウ 選手はスコアシートと携帯端末が、合っていることを確認後、携帯端末から送信する。
  - エ 競技者自身が関与する得点記録業務の内容は、他の競技者の得点記録や順位に関する権利にも影響を及ぼす。それぞれが下記の順序と各々の分担業務を確実に行うこと。

役割等を拒んだ場合は競技会への参加権利を失うものとする。虚偽が発生した場合は、該当選手または同標的選手全員を失格とすることもある。

#### 1 的 4 人

順序	得点記録の順序／業務分担	競技者 A	競技者 B	競技者 C	競技者 D
1	A の得点記録	得点呼称	呼称確認	端末入力	得点記入
2	B の得点記録	得点記入	得点呼称	呼称確認	端末入力
3	C の得点記録	端末入力	得点記入	得点呼称	呼称確認
4	D の得点記録	呼称確認	端末入力	得点記入	得点呼称
備考	得点記入の選手の復唱	スコアシートに記された得点を復唱し確認する			
	スコアシート	スコアシートの氏名欄の選手名を確認する。			
	的中孔の確認	的中孔の全てに、L 字マークを記入する。			

#### 1 的 3 人

順序	得点記録の順序／業務分担	競技者 A	競技者 B	競技者 C	全 員
1	A の得点記録	得点呼称	端末入力	得点記入	呼称確認
2	B の得点記録	得点記入	得点呼称	端末入力	呼称確認
3	C の得点記録	端末入力	得点記入	得点呼称	呼称確認
備考	得点記入の選手の復唱	スコアシートに記された得点を復唱し確認する			
	スコアシート	スコアシートの氏名欄の選手名を確認する。			
	的中孔の確認	的中孔の全てに、L 字マークを記入する。			

- (3) 得点記録(的中点数の判読・記載得点の復唱・誤記入等)に関し、異議があれば直ちに審判員の判定、訂正確認を求めることができる。
- (4) 的中点数の判定について、選手は次のとおり異議を申し立てる権利がある。
  - ア 得点の判読に対する自己確認、またはマーカーとして得点の確認で、それぞれの立場で疑義が生じた場合、いずれから審判員の判定を求めることができる。
  - イ 審判員により得点の判読が行われ、これが最終判定となる。
- (5) 個人戦決勝ラウンドの 1 回戦から準決勝までのスコアシートへの記入(得点・ポイント)及び得点表示板への表示(ポイント)は選手が行う。  
3 位決定戦・決勝戦では得点の判読を審判員が行い、エージェント(得点記録代行者)がスコアシートに記入確認を行う。この判読が最終判定である。
- (6) 団体戦決勝ラウンドの 1 回戦から準決勝までのスコアシートへの得点記入及び得点表示板への得点表示は選手が行う。  
団体戦の 3 位決定戦・決勝戦では得点の判読を審判員が行い、エージェント(得点記録代行者)がスコアシートに記入、確認を行う。この判読が最終判定である。
- (7) 同一標的選手全員の得点記録業務が完了し、得点記入が終わったことを選手全員が確認するまで、矢・標的面・標的支持枠等は一切触れてはならない。
- (8) スコアシートに記載された得点の訂正は、矢を抜き取る前に審判員を呼び、2 本線で該当エンドのすべて矢の訂正を行い、その的の選手全員がサインし、審判員に確認してもらおう。同じエンドで 2 回以上の訂正をする場合、訂正欄がないため審判員に訂正しても

らう。

- (9) 得点記録業務に必要な絶対条件を、各自が完全に履行すること。不注意による不履行も、マーカー方式における「合意の違反行為」とみなされる。

ア スコアシートに記載される各エンドのスコアが正確であることについて、各選手は競技者としての責任を負わなければならない。

イ 各々の分担業務遂行のため、選手名を聞き漏らさないこと。

ウ 誤りを防ぐために、用紙・選手名・記入上の確認を行うこと。

エ 得点記入した選手が復唱しない場合は、復唱を必ず要求すること。

オ 声量不足で聞き取れない場合は、再度の復唱と声量の要求をすること。

カ 得点呼称時に、必ず「自分のスコアシートの記入欄」であることを確認すること。

キ 矢を抜き取る前には、標的面的的中孔にL字マークを記入しておくこと。

ク 選手(団体戦決勝ラウンドの場合は代表者)は、競技終了時にスコアシートに確認のサインをする。サイン不履行の場合、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

ケ 得点呼称は他の競技者にも分かりやすいよう指を差しながら行う、その際矢には触れないよう注意すること。

コ 上記ア～ケの行為は、すべてそれぞれの選手の責任として行うこと。

- (10) 得点記録業務において、次の場合には当該選手並びに同一標的を使用する選手全員の失格を宣言することがある。

ア 自身の虚偽や不正申告の場合

イ 上記行為の合意・容認の場合

ウ 各厳守事項に対する不全・不履行の場合

- (11) 競技者自身が標的に行けない場合、審判員の許可を得てチームの監督、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。

## 5 スコアシートについて

- (1) 予選ラウンド用のスコアシートは、予選ラウンド練習前に配布され、必要事項を記入する。

- (2) 決勝ラウンド用のスコアシートについては各対戦前に配布される。(1対戦1枚)

## 6 服装規定について

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める服装規定により実施する。



## 7 公式練習について

- (1) 標的は距離 70m、122 c m的を使用し、予選時の標的立ち順に従って行う。
- (2) 出場登録された選手のみを対象とする。
- (3) 監督・選手・マネージャーは競技時に使用する服装を着用し、選手・マネージャーは必ず競技者番号を装着し、監督は「IDカード」を装着すること。
- (4) AB・CD矢取り、CD・AB矢取りの2立ち(4分)で実施する。
- (5) 用具・服装検査・公式練習の日程は下記のとおりとする。

用具・服装検査及び公式練習 8月2日(金)

	男子	女子
公式練習	12:00~12:55	13:05~14:00
用具・服装検査	13:05~14:00	12:00~12:55

## 8 練習会場の利用について

- (1) 練習会場は白岩運動公園白岩競技場奥の白岩運動広場に設置する。
- (2) 日程・時間帯は下のとおりとする。  
8月1日(木) 自由練習 10:00~16:00 開設  
8月2日(金) 自由練習 9:00~14:00 開設  
8月3日(土) 自由練習 9:00~17:00 開設  
8月4日(日) 自由練習 9:00~16:00 開設
- (3) 「4分間行射、矢取り」を繰り返す自由練習とする。
- (4) 一時的に利用者が集中する場合は2~3立ちの行射に切り替える。
- (5) 選手・マネージャーは必ず競技者番号を装着し、監督は「IDカード」を装着すること。  
\*練習会場へ入る際に係が確認いたします。

## 9 失格について

- (1) 選手の違反行為に対して  
1回目……………注意  
2回目……………警告  
3回目……………失格の処分とする。  
ただし、大会の秩序を著しく失墜混乱させる行為・スポーツマンシップに反する行為等については、1回目での失格もあり得る。
- (2) 監督の違反行為についても同様であるが、特に以下の事項に注意すること。  
ア 喫煙については所定の場所以外では厳禁のこと。  
イ その他、「競技規則」や「総体参加心得」に反する行為とみなされた場合は、競技場への立ち入りを制限する。

## 10 その他の事項について

- (1) 的紙の一斉交換は以下のとおりとする。  
ア 予選ラウンド 8月3日(土)
  - ・午前男子練習終了後
  - ・午後女子練習終了後

- イ 個人決勝ラウンド 8月4日(日)
- ・練習終了後
  - ・3回戦終了後
  - ・準決勝終了後(3位決定戦前)
  - ・3位決定戦終了後(決勝前)
  - ・審判員が必要と認めた場合。(選手よりアピールがあるなしにかかわらず)
- ウ 団体決勝ラウンド 8月5日(月)
- ・練習終了後
  - ・準決勝終了後(3位決定戦前)
  - ・3位決定戦終了後(決勝前)
  - ・審判員が必要と認めた場合。(選手よりアピールがあるなしにかかわらず)

- (2) 競技場内の立ち入りについては以下のとおりとする。
- ア 監督・マネージャーは、競技中はWWLまで立ち入ることができる。
- イ 団体戦決勝ラウンドにおいては、チームの監督・マネージャーのうち1名が、コーチボックスに入ることができる。
- ※審判員が選手・マネージャーに注意を与える場合、コーチボックスに監督がいないときは、監督を通さず直接指導することになる。
- ウ 監督・選手・マネージャーの服装は服装規定に従うこと。
- なお、監督には「IDカード」を配布するので、大会期間中は必ず装着すること。
- ※監督が男女を兼ねている場合は2枚の「IDカード」を配布する。
- (3) 使用する弓具はPLより後方に整頓して置くものとする。
- (4) 競技会場および練習会場で行射により矢を紛失した場合は、審判員(競技会場)または練習会場係(練習会場)に必ず報告すること。
- (5) 団体戦出場校の選手は、ノック又はフェザーの識別が可能な矢(全員が異なる)を使用すること。
- (6) 記録の速報については次のとおりとする。
- ア 予選ラウンドでは、6射終了毎に会場内の速報掲示板に記録を掲示する。
- イ 予選ラウンド終了後に行う記録の確認は、速報掲示板に掲示された確認記録一覧表による。記録を掲示してから10分間の時間を設け、公式記録に対する異議申し立てを受け付ける。
- ウ 決勝ラウンドでは、各対戦終了毎にトーナメントボードに結果を表示する。
- エ 確定記録は、予選ラウンド・決勝ラウンドとも引換券と引き換えで配布する。
- (7) 異議申し立てについては、いかなる場合も監督を通じて競技本部で受け付け、競技委員会の裁定をもって最終決定とする。
- (8) 携帯電話等を競技場内で使用すること、及び着信音を鳴らすことを厳禁とする。
- (9) 個人戦表彰式・団体戦表彰式および閉会式については以下のとおりとする。
- ア 個人戦表彰式には、個人戦決勝ラウンドで8位以内に入賞した選手が参加する。
- イ 団体戦表彰式および閉会式には、団体戦決勝ラウンドに出場した全選手・マネージャーが参加することを原則とする。

11 スコアシート

(1) 予選ラウンド用スコアシート

ア スコアシートは予選ラウンド練習前に配布される。

(選手は的番号、氏名・学校名・ゼッケン番号・ラウンド数を記入すること)

イ スコアシートは1的ごとにA4版1枚とする。

ウ 1枚目(黒):本部用、2枚目(赤):記録用、3枚目(青):選手用である。

選手はスコアシートに得点を記入し選手テント後方のテーブル上のトレーに置くこと。

選手用(青)は各自で保管する。

エ 得点記入は下から記入する。

オ 36射終了時に、選手サイン・記録者サインを忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

平成25年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮杯 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会 70 m 平成25年8月3日		平成25年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮杯 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会 70 m 平成25年8月3日		平成25年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮杯 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会 70 m 平成25年8月3日		平成25年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮杯 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会 70 m 平成25年8月3日	
12-A	所 属	12-B	所 属	12-C	所 属	12-D	所 属
選手名	△△ △△	選手名	◎◎◎ ◎◎	選手名	◇◇ ◇◇◇	選手名	## ##
選手 サイン		選手 サイン		選手 サイン		選手 サイン	
記録者 サイン		記録者 サイン		記録者 サイン		記録者 サイン	
10 数	× 数	36射計	10 数	× 数	36射計	10 数	× 数
第6 エンド	第5 エンド	第4 エンド	第3 エンド	第2 エンド	第1 エンド	第6 エンド	第5 エンド
12-A	12-A	12-B	12-B	12-C	12-C	12-D	12-D
1ラウンド	1ラウンド	1ラウンド	1ラウンド	1ラウンド	1ラウンド	1ラウンド	1ラウンド
合計 点数	合計 点数	合計 点数	合計 点数	合計 点数	合計 点数	合計 点数	合計 点数
57	56	50	51	51	52	52	57
△△◎◇##						◎◎△△◇##	

(2) 個人戦決勝ラウンド用スコアシート

- ア スコアシートは各対戦前に配布されるので必要事項を記入し、開始時に担当審判に提出する。(選手は的番号、ゼッケン番号・氏名・学校名を記入する。)
- イ スコアシートは1対戦(2人)に1枚で記入する。
- ウ スコアシートは1枚目(黒):本部用、2枚目(赤):記録用となっている。  
対戦終了後、選手はスコアシートを審判に渡す。
- エ 対戦終了後に選手サインを忘れないこと。選手サインが記録者サインを兼ねる。  
※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

平成25年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮賜牌 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会												
個人決勝トーナメント				男子・女子				1回戦・2回戦・3回戦・準々決勝・準決勝・3位決定戦・ <b>決勝</b>				
平成25年8月4日												
ゼッケン		22		的番号		的番号		ゼッケン		43		
選手名		佐賀 太郎		6		7		選手名		武雄 五郎		
学校名		玄海東 高等学校						学校名		有明第四 高等学校		
	1	2	3	計	ポイント/表示ポイント	SET	ポイント/表示ポイント		1	2	3	計
1	8	7	7	22	0 → 0 <sup>①</sup>	1	2 → 2 <sup>①</sup>	1	9	9	8	26
訂正												
2	9	9	7	25	1 +①= 1	2	1 +①= 3	2	<del>9</del>	<del>9</del>	<del>8</del>	佐賀 武雄
訂正									9	8	8	25
3	9	8	8	25	0 +②= 1	3	2 +②= 5	3	10	9	8	27
訂正												
4	9	9	8	26	2 +③= 3	4	0 +③= 5	4	10	10	M	20
訂正												
5	X	10	7	27	2 +④= 5	5	0 +④= 5	5	10	8	8	26
訂正												
シュートオフ		8点 145 mm		1 +⑤= 6		SO	0 +⑤= 5	シュートオフ		8点 158 mm		
シュートオフの勝者は 1点 加算												
選手サイン		佐賀 太郎		勝		勝		選手サイン		武雄 五郎		
審判員サイン 鍋島 大悟郎												

(3) 団体戦決勝ラウンド用スコアシート

- ア スコアシートは各対戦前に配布される。必要事項を記入し開始時に担当審判に提出する。  
(選手は的番号・学校名を記入する。)
- イ スコアシートは1対戦(2チーム)に1枚で記入する。
- ウ スコアシートは1枚目(黒):本部用、2枚目(赤):記録用となっている。  
選手は6射ごとに記録し、集計用携帯端末に入力する。
- エ 対戦終了後に選手サインを忘れないこと。  
※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

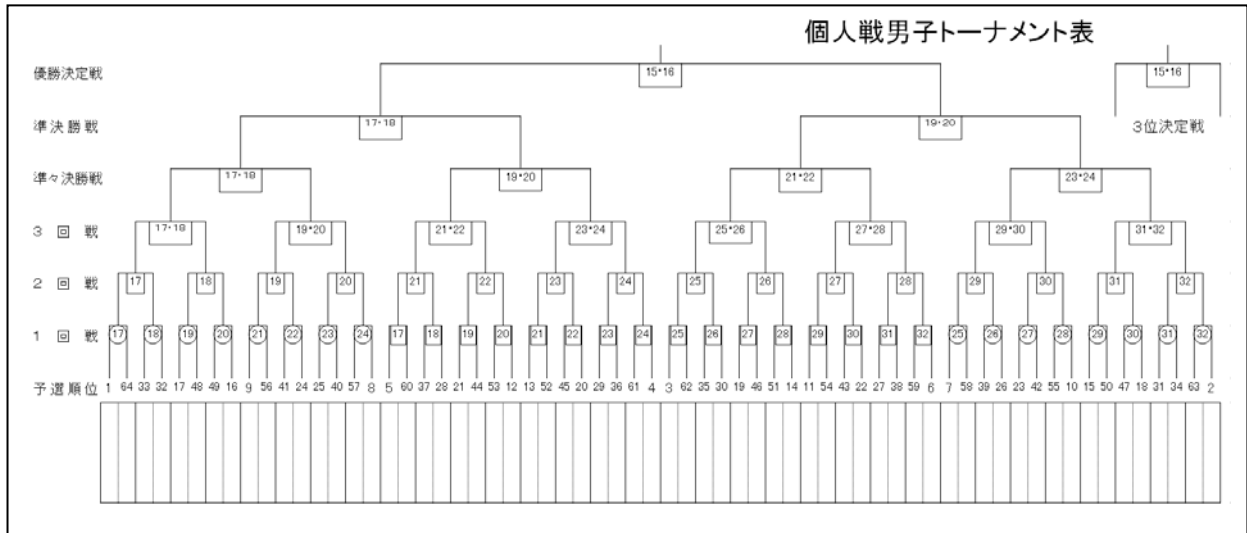
平成25年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高円宮賜牌 第46回全国高等学校アーチェリー選手権大会																									
団体 決勝トーナメント			男子 ・ 女子			1回戦			準々決勝 ・ 準決勝 ・ 3位決定戦 ・ 決勝																
学校名		◎◎◎				高校		的番号		5		的番号		6		学校名		◇◇◇◇				高校			
第1 エンド	素点	1	2	3	4	5	6	6射計	6射合計	射正サイン		第1 エンド	素点	1	2	3	4	5	6	6射計	6射合計	射正サイン			
	射正	10	10	9	9	9	9	<del>56</del>	<del>56</del> 55	◇◇◇◇ ◎◎◎			射正	9	9	9	8	7	7	49	49				
第2 エンド		素点	1	2	3	4	5	6	6射計	12射合計	射正サイン		第2 エンド		素点	1	2	3	4	5	6	6射計	12射合計	射正サイン	
射正		9	9	9	9	8	8	52	107			射正	10	10	9	9	9	9	56	105					
第3 エンド		素点	1	2	3	4	5	6	6射計	18射合計	射正サイン		第3 エンド		素点	1	2	3	4	5	6	6射計	18射合計	射正サイン	
射正												射正													
第4 エンド		素点	1	2	3	4	5	6	6射計	24射合計	射正サイン		第4 エンド		素点	1	2	3	4	5	6	6射計	24射合計	射正サイン	
射正												射正													
シュートオフ		1	2	3	3射計	最高点削除	修正後計	勝 敗		シュートオフ		1	2	3	3射計	最高点削除	修正後計								
審判サイン								勝 勝		審判サイン															
代表者サイン								勝った方に○印		代表者サイン															
1枚日本用 2枚記録機用																									

<<予選通過者にはゼッケンを配布するので予選ラウンド終了後本部まで取りにくること。>>

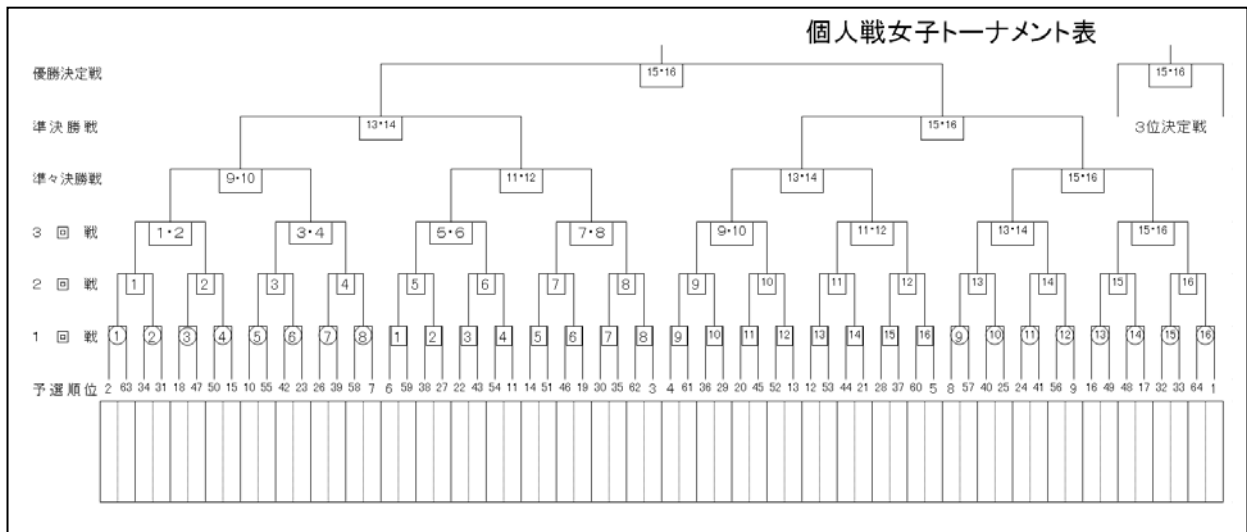
個人戦決勝トーナメント表

- ※ □内の数字は標的番号を表す。
- ※ 1・2回戦は1標的2名の行射とする。
- ※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。
- ※ 1回戦の□は1組目の標的番号、○は2組目の標的番号を表す。

<男子>



<女子>



## 団体戦決勝トーナメント表

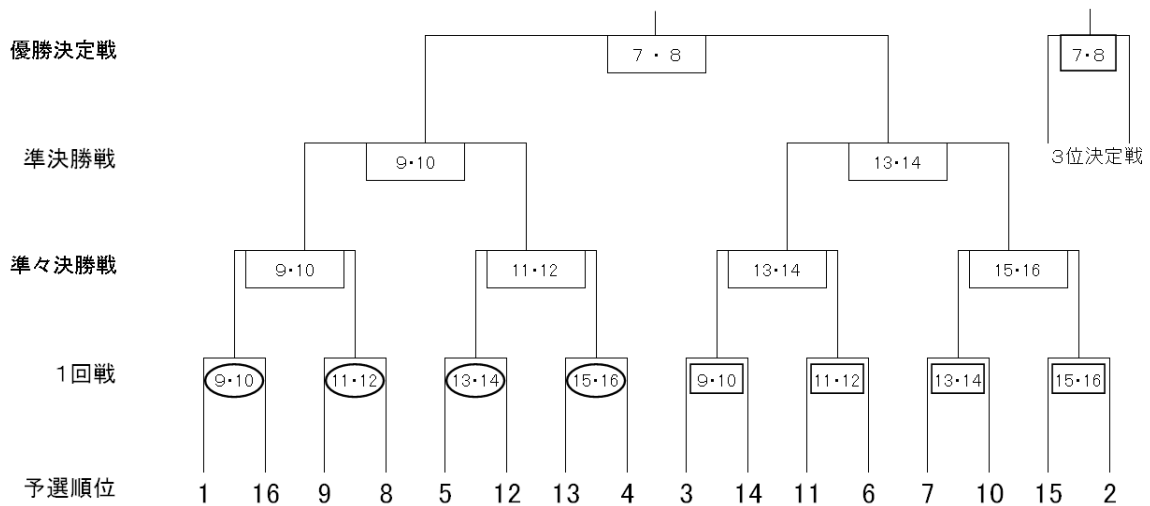
※ □内の数字は標的番号を表す。

※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。

※ 1回戦の□は1組目の標的番号、○は2組目の標的番号を表す。

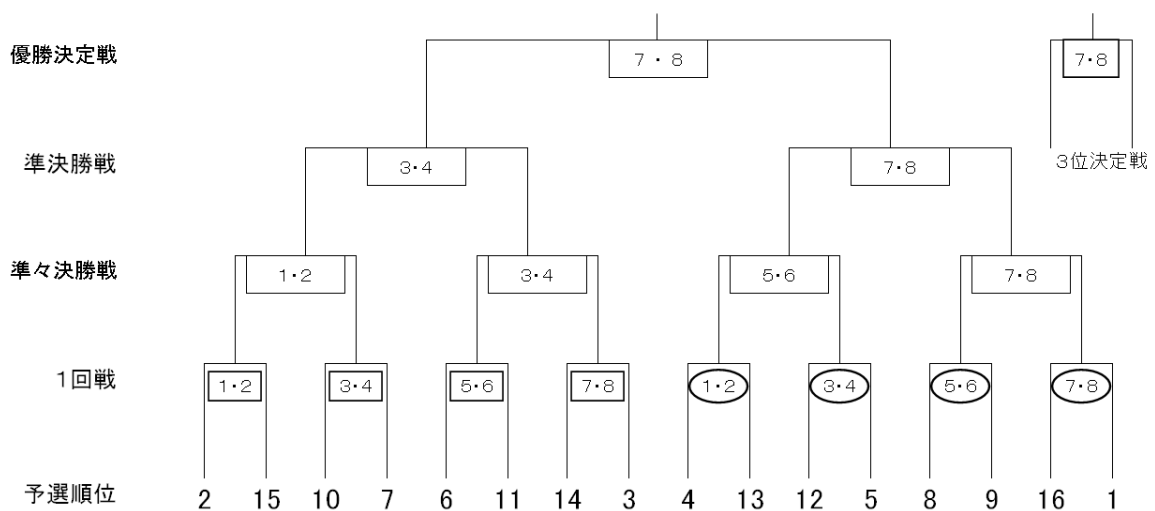
### <男子>

#### 【男子】



### <女子>

#### 【女子】



『参考資料』

【団体戦の罰則規定について】

1 1 mラインを越えるのが早すぎたとき。

『規則』 1名の選手しか1 mラインを越えてはならない。

事例①：2～3人の選手が同時にシューティングラインに立ち、イエローカードを無視し、シュートした場合。

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

事例②：上記以外で1 mライン上での違反。

対応：イエローカードが出され元の位置に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

2 クィーバーから矢を早く抜きすぎたとき。

『規則』シューティングラインをまたいで立つまではクィーバーから矢を取り出してはならない。

対応：イエローカードが出され元の位置に戻ってやり直す。

警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

3 決められた本数以上の矢を射ったとき。(時間外発射を含む)

事例①：1人の選手が3本行射した。

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

事例②：制限時間を過ぎて矢を発射した。

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

《付記》選手は、その選手のものであるとはっきり識別できる矢を使わなければならない。

審判員が一目見て、3選手がそれぞれ2射しか発射していないことが確認できるように、各選手はチームの他の選手とは明らかに違った、ノック・フェザー・クレストを使用すること。

4 コーチボックス内にいる者が、コーチボックスから出たとき。

『規則』 監督は、選手が行射中は、コーチボックスの中かダブルウエティングライン後方にいなければならない。

1回目の違反 → 対応：審判は、コーチボックスを指す。

2回目の違反 → 対応：その対戦中、コーチボックスから退去させる。

3回目の違反 → 対応：その日の競技終了まで競技場への立ち入りを禁止する。



## 5 行射開始の合図以前に1 mラインを越えたとき。

『規則』 全ての団体戦は、1 mライン後方に待機した状態で始まる。

事例①：選手がブザー2声(ムーブアップ)で1 mラインを越え、シューティングラインに移動した。

対応：小さな違反として対処する。

内容：イエローカードが出され元の位置に戻ってやり直す。

警告を無視して行射を続けた場合、レッドカードが出され、そのエンドの最高得点を削除。

《付記》 かけ声、虚点の発声等による錯乱・虚勢行為は、競技者としてはあるまじき行為である。相手の立場を尊重するフェアプレーの精神で、真執な競技態度であることを望む。この点については、各監督に徹底して事前指導を要望する。